



CONTENTS

- 02 住民主体の地域包括ケアを推進
岩手県国民健康保険フォーラム
- 05 引き続き地域医療を支える
宮古市の国保診療施設から学ぶ
岩手県地域医療研究会「第11回現地研究会」
- 06 幹事長に鈴木重男氏(葛巻町長)を再任
29年度修学生14人を採用
岩手県国保診療施設運営連絡協議会
「臨時幹事会」
新たな出発 国保葛巻病院
医療の充実とサービスの向上目指し
国保葛巻病院「落成式」

- 07 29年度事業計画案等を承認
会長に高橋昌造氏(矢巾町長)を再任
平成29年度(第1回)岩手県保険者協議会
- 08 29年度事業計画を決定
検査技術の向上を目指した研究会も開催
岩手県市町村職員臨床・衛生検査
技術者協会「総会・研究会」

今月の表紙
「秋華やぐ風流山車」
盛岡市

爽やかな秋晴れの9月15日、「盛岡八幡宮例大祭」の山車行事を取材。1台につき約200人の若衆が引く豪華絢爛な山車とおはやしの行列が、大八車の音をききませながら市内を練り歩き、街全体を賑わせていました。同行事は盛岡市の無形民俗文化財に指定されており、約300年の歴史を誇っています。

住民主体の地域包括ケアを推進



本会は8月24日、盛岡市「アイーナ」(いわて県民情報交流センター)で岩手県国民健康保険フォーラムを開催した。国保関係者など約330人が参集したフォーラムでは、住民主体の地域包括ケア推進に向けた基調講演のほか、「超高齢社会を乗り切るために」をテーマにパネルディスカッションが行われ、国保運営、医療、保健事業に携わる3人のパネラーが、日ごろからの取り組みを発表した。また、国保事業の発展に貢献した16人が表彰され、会場からは長年の功績に盛大な拍手が送られた。

国保被表彰者に敬意



開催にあたり、あいさつした本会の谷藤裕明理事長(代読・菅原和彦専務理事)は、「本日のフォーラムでは、

医療や介護、予防・生活支援などを一体的に提供する地域包括ケアシステム

基調講演

地域の絆やつながりを生かす

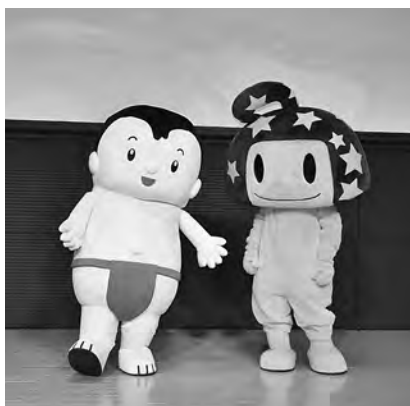


福井大学医学部
地域プライマリケア講座講師で福井県高浜町国保和田診療所医師の井階友貴氏が「地域主

体の地域包括ケアのカタチ―地方創生×地域力創造で臨む健康のまちづくり」と題し基調講演した。(以下、要旨) 本日は、地域主体の地域包括ケアの実現に向け、意識してほしい健康のまちづくりの要素をお伝えしたい。

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるには、地域の絆やつながりを生かすことが重要である。地域における社会参加や交流が、健康に大きな影響を及ぼすとの調査結果があり、住民同士が互いに信頼しあう地域ほど健康寿命は長いとされ、「行動」「交流」「支援」の3要素が健康寿命の延伸につながる。

について、福井県高浜町の先進事例を基調講演いただくほか、その後のパネルディスカッションでは、3名にパネラーから地域包括ケアに関する特徴的な取り組み事例を発表していただく」と述べた上で「本日は、国保事業に尽力された方を表彰することとしており、被表彰者の永年にわたる努力と功績に對し、心から感謝を申し上げる」と敬意を表した。



応援に駆けつけた福井県高浜町キャラクター「赤ふん坊や」(左)と本県国保イメージキャラクター「ハビルスくん」がステージでごあいさつ

福井県高浜町では、地域包括ケアなどの多くのテーマで、住民と関係団体が意見交換を行っている。決して堅苦しい意見交換ではなく、あらゆる分野の人がテーマを決めてざっくばらんに、おしゃべりする会である。これまでに産業や観光、認知症、酒、がん、たばこ、独居など多くのテーマで開催し、そこで出されたたわいない意見がまちづくりにつながることが多くあった。海岸

パネルディスカッション
意見発表表

超高齢社会を乗り切るには

サイクリングロード整備やお一人様（独居者）ランチ会などが一例である。このようにゆるく話しパワフルに生かす「ゆるパワ」の取り組みが高浜町での地域包括ケアにつながっている。

地域包括ケアとは「まちづくり」である。住民と行政、関係組織は地域全体の改善内容を話し合い、実現に向けて行動してほしい。生活と結びついた地域包括ケアの取り組みを住民が実施できるかが鍵となる。

平成29年度 国民健康保険功労者の方々

岩手県国民健康保険運営協議会委員 〔各種委員部門〕 滝沢市国民健康保険功労者委員会 川邊美恵子	岩手県国民健康保険診療報酬審査委員会委員 佐々木正孝	盛岡市保健所健康増進課副主幹 佐々木藤子	北上市保健福祉部健康増進課課長補佐 小野 尚子	一関市保健福祉部健康づくり課長 兼一関保健センター所長 鈴木久仁子	〔保健施設部門〕 奥州市総合水沢病院診療部長兼診療部内科長 西村 成夫	八幡平市国民健康保険安代診療所所長 和田 進	国民健康保険葛巻病院副看護師長 服部 たき	町立西和賀さわうち病院上席主任歯科衛生士 石川 澄子	岩手県国民健康保険岩泉歯科診療所所長 岩田 信浩	〔国民健康保険診療報酬審査委員会委員部門〕 岩手県国民健康保険診療報酬審査委員会委員 小林 泰宏	岩手県国民健康保険診療報酬審査委員会委員 小井田潤一	岩手県国民健康保険診療報酬審査委員会委員 米澤 久司	〔国民健康保険運営協議会委員部門〕 花巻市国民健康保険運営協議会委員 中村 良則	岩手県国民健康保険運営協議会委員 宮田 左京	一戸町国民健康保険運営協議会委員 伊藤 健
--	-------------------------------	-------------------------	----------------------------	---	---	---------------------------	--------------------------	-------------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--	---------------------------	--------------------------



「超高齢社会を乗り切るために」をテーマにパネルディスカッションが行われ、岩手県立大学総合政策学部の桑田但馬准教授を司会者に、国保運営、医療、保健事業に携わる3人のパネラーが意見発表した。（以下、要旨）

「超高齢社会を乗り切るために」

久慈市 遠藤譲一 市長

久慈市の高齢化率は29・9%（平成28年）で、市民の約3割が65歳以上である。そうした中、当市では高齢者福祉の充実に向けて、要介護状態にならずに自立した高齢者を増やしていくため、介護予防や認知症対策などの各事業を実施している。

介護予防では、予防事業が市内各地域で展開されるよう、昨年度は「地域でつくるみんなの元気」講演会を開催。500人を超える多くの市民が参加し、全員で介護予防のための「いきいき百歳体操」を体験した。その後、体操は着実に市内全域で取り組まれており、さらなる拡大を期待している。

また、認知症サポーター養成講座にも力を入れている。28年度までの10年間で4436人のサポーターを養成し、企業や地域、行政のほか、小学校



などの教育機関も含めて取り組んだことで、世代を問わず認知症に対する理解が深まったと感じている。

このほか、医療・介護の情報連携として「北三陸ネット」を構築している。久慈管内の医療機関や薬局、介護施設、地域包括支援センターなど67施設が、患者情報や投薬情報などを共有し、質の高いサービスの提供に取り組んでいる。現在の利用登録者数は2450人で、今後さらに登録者を増やしていきたい。

超高齢社会がさらに進むということ、で今以上に在宅介護が求められる。そうした状況の改善には、元気な高齢者が今後も元気であるように、当市が取り組む健康づくりや介護予防に参加いただくことが大事である。そして、地域全体で声を掛け合いながら、支え合う町づくりを進め、町全体をさらに明るくしていきたいと考えている。

「地域包括ケアシステムの構築

―陸前高田市の取り組み―

陸前高田市国保二又診療所

石木幹人 所長

気仙地域は高齢化が進み、約20年後には一人の高齢者を1・48人の若者で



支えることになり、本当にとんでもない時代がやってくると感じている。

陸前高田市でも山間部集落の高齢化率が高く、独居や老介護の住宅が点在し、冬場の訪問診療や訪問介護は困難を極める。こうした状況に対処するため、

県立高田病院時代から介護職や市役所との連携を図ってきた。

現在は高齢化社会に対応するために立ち上げた「気仙在宅療養を支える会」チームけせん和でさまざまな取り組みを行っている。その中のひとつに「劇団バババ」がある。これは、チームけせん和のメンバーが、演劇を通して住民の健康づくりを啓もうする会で、これまでに減塩や転倒予防など多くの演劇を披露してきた。また、演劇が端緒となり、紙芝居による健康講座に発展し、紙芝居はこの1年で約50回もの講演を開催した。

ある調査によると、日本人が介護を



要する期間は約10年とされ、これからの超高齢社会を考える際、高齢者同士が互いに助け合い生活する必要がある、そのためには地域再生が不可欠である。

そうした中、地域の明るい未来に向けて変えられるものは何か。それは地域における「若者の数」である。高齢者を支える仕組みと連動し、子どもを支える地域を作ることによってUターンやIターンを増やしていく。そして、若者と高齢者のコミュニティを作り、宅老所や託児所、学童保育が一括で活動し、そこに高齢者の働く場所を作りながら、医療・介護・福祉も参加する。こうした場を多く作ることが、超高齢社会を乗り切る一つの方策にならないか。

「超高齢化社会を乗り切るために」

——山田町の介護予防の取り組み——
山田町長 福祉課

佐々木裕子 介護予防支援係長

山田町は人口約1万6千人、そのうち高齢者は5900人、高齢化率は36.1%で、すでに超高齢社会を迎えている町である。そうした中、町民の健康



寿命を延ばすことが超高齢社会を乗り切る最大の方策と考え、従来の介護予防活動に加え、すべての高齢者が社

会参加できる仕組みを構築しながら事業を進めている。

パネルディスカッション 全体討議

地域包括ケアはまちづくり、住民一人一人の力で

意見発表終了後、全体討議が行われた。
(以下、主な内容)

栗田「地域包括ケアを進めるうえで苦労点などがあれば紹介してほしい」

遠藤「限られた人だけの取り組みになっている部分があり、継続的な住民参加がなかなか進まない。男性参加者が少ないことも課題」

石木「医療活動を通して課題を行政につなげるのが私の役割だが、健康寿命の延伸においても継続的な取り組みができず歯がゆい部分がある」

佐々木「男性の参加が少ないのが悩み。そうした中、当町のシルバリーハビリ体操では、男性に指導者をお願いすることで男性参加を促している」

井階「男性参加が少ないのは全国共通の課題。福井県高浜町では、知り合うことを目的に、たばこやお酒の会を作り、男性参加のきっかけとしている」

栗田「住民が活動成果を実感できる仕組みづくりも重要。その点はどう考えるか」

る団体に対し、15万円を上限に活動費を助成している。今後、さらに団体を増やし、地域の見守りと支え合いが育つように支援していく予定である。

また、シルバリーハビリ体操教室はリハビリ専門職に限られる地域でも効果的な介護予防が展開できるように、住民の中から指導者を養成し、地域住民に対して指導している。29年度は体

操の3級指導者として17人の住民が認定を受け、29年度モデル事業として体操教室を開催した。

当町では、こうした介護予防活動をさらに発展させていきたいと考えており、そのためには高齢者が自らの思いを実現できる居場所を作り、社会参加できる地域づくりを進めることが必要と考えている。

石木「山田町の取り組みは素晴らしい。シルバリーハビリ体操の成果を話し合う場をつくることで、それが活動の継続にもつながっている」

遠藤「健康づくりの効果判定は難しく、さらに健康づくりの効果判定は難しい。そうした中、医師や研究機関が具体的な数値をもつて活動事例を紹介してくれば現場としてありがたい」

佐々木「住民に健康づくりの目的を強く意識づけしている。また、住民が住民を指導していきけるような仕掛けも検討しながら進めている」

井階「大事なのは今日学んだことを参加者だけが理解するのではなく、地域住民に伝え全体で理解すること。同じ意識を持つことは健康づくりの継続にもつながるので、本日の参加者がキーとなり、地域に広めてほしい」

栗田「本日の話を聞き、パネルの皆さんはまちづくりの中に地域包括ケアを位置づけておられる。自分たちで町を良



全体討議では井階氏を助言者に加え活発な意見交換が行われた

くするにはどうすればいいか。それは難しいことではなく、住民一人一人ができることを行うことが大事である。それぞれの役割に大小はあるが、町を良くするにはどうすればいいかをそれぞれの立場で考え共有することが、長い目で見て重要である」

引き続き地域医療を支える 宮古市の国保診療施設から学ぶ

岩手県地域医療研究会「第11回現地研究会」

岩手県地域医療研究会（会長・磯崎一太 会長）は8月19日、宮古市田老「グリーンピア三陸みやこ」で第11回現地研究会を開催した。県内の国保診療施設などから約40人が出席した研究会では、宮古市国保田老診療所の施設概要が説明されたほか、同市3診療所から活動報告が行われた。

冒頭、あいさつした磯崎一太会長は「各国保診療施設の新築に合わせて、現地研究会を再開することとしていたが、今回、田老診療所が移転新築したことから当地での開催となった。本日は田老診療所の他に宮古市国保直診の新里診療所と川井診療所の先生方からも、活動報告をいただくこととしている。国保診療施設の果たすべき役割、あるいはそれに対する住民の期待、職員の意欲について皆さんと意見交換しよう」と呼び掛けた。

続けて、来賓あいさつした宮古市の山本正徳市長（代読・佐藤廣昭 副市長）は同市での研究会開催を歓迎した



岩手県地域医療研究会
磯崎一太 会長

上で、「津波で全壊し、グリーンピア三陸みやこの仮設診療所で運営をしてきた国保田老診療所が昨年8月に再建することができ、関係者各位の御支援、御協力に御礼申し上げる」と感謝の言葉を述べた。

設計に多くの意見を反映

宮古市国保田老診療所の中坪清見事務長が施設概要説明を行った。

中坪事務長は田老病院から田老診療所への建て替え、東日本大震災での被災、グリーンピア三陸みやこに仮設診療所を開設した約5年間の診療について説明したほか、移転新築した診療所については「昨年の8月に山王高台に移転新築した。設計にはスタッフの意見を多く取り入れ、太陽光パネルの設置、自家発電2基により、停電時も診療を継続できる設備にした」と説明した。参加者は研究会終了後、同診療所に移動し、視察研修を行った。



昨年8月に移転新築した「宮古市国保田老診療所」の視察研修も行われた

宮古市3国保診療所から活動報告

国保田老診療所 橋本祥弘 所長



橋本所長は震災後に赴任したが、前任者が残した資料を基に震災前と震災後について説明し、田老地区の人口が震災前の7割の約3000人となり、外来患者数も減っていることを報告した。

現在はスポット尿で塩分摂取量を測定し、減塩の取り組みをしている。県立宮古病院長が作成した「宮古版あいうえお塩分表」を活用し指導していると発表した。

国保新里診療所 盛合直樹 所長



新里地区の人口は約3000人で、1日平均約40人の外来診療を行っていることを説明した。現在は、生活習慣病の中でも糖尿病に力を入れ、糖尿病患者の最も適した運動療法は何かについて研究をしているほか、糖尿病患者には合併症の危険が多くあるため循環器等の検査でほかの疾患を見つけることもあると事例を紹介した。

国保川井診療所 河合誠司 所長



川井地区は人口約2500人で外来の1日平均が約43人、入院が約5人であることを説明し、川井診療所には家庭医療の原点があること、県内で有床診療所が川井診療所のほかに衣川診療所だけであり、病床があることは住民にとっては最大のメリットである反面、医師にとっては負担が大きく、夜間および休日の応援診療が必要であること、また、地域の診療所に従事する医師の課題として専門医の資格を維持できるかという問題を提起した。

岩手県国保診療施設運営連絡協議会幹事名簿（敬称略）
（任期：31年3月31日まで）

役職名	氏名	公職名	地区協議会
幹事長	鈴木 重男	葛巻町長	盛岡
副幹事長	細井 洋行	西和賀町長	岩手中部
〃	柁屋 伸夫	普代村長	久慈
幹事	高橋 由一	金ケ崎町長	胆江・一関
〃	戸羽 太	陸前高田市市長	大船渡・釜石
〃	山本 正徳	宮古市長	宮古
〃	藤原 淳	二戸市長	二戸
〃	磯崎 一太	地域医療研究会会長	（学識経験者）

岩手県国保診療施設運営連絡協議会
は7月28日、国保会館で臨時幹事会を
開催した。
協議では29年3月31日で任期満了と
なっていた幹事長、副幹事長の互選が
行われ、幹事長に鈴木重男葛巻町長、



岩手県国保診療施設運営連絡協議会
鈴木重男 幹事長

岩手県国保診療施設運営連絡協議会「臨時幹事会」

幹事長に鈴木重男氏（葛巻町長）を再任
29年度修学生14人を採用



臨時幹事会では29年度医師養成事業の業務推進状況などが説明された

副幹事長に細井洋行西和賀町長と柁屋
伸夫普代村長を選出した。任期は平成
31年3月31日までとなる。（幹事名簿
は上表参照）
続けて、29年度の医師養成事業につ
いて、現在の業務推進状況が説明され
た。
本会の尾形盛幸医師対策監は「29年
度は新たに過去最高となる14人の修学
生を採用した」と説明したほか、県外
医科大学在学生や、養成医師で県外に

医療の充実とサービスの向上目指し
新たな出発 国保葛巻病院

国保葛巻病院「落成式」

平成29年8月26日、国保葛巻病院（佐々木崇
名誉院長、60床）の落成式が同町の現地で行わ
れ、鈴木重男葛巻町長をはじめとする関係者約
90人が出席し、住民の生命と健康を守る待望の
新病院完成を祝った。

式では、鈴木町長が「①安心の医療サービス
提供②安らぎとくつろぎのある空間づくり③町民が誇れる病院—の3つの視点で整備を進めて
きた」と落成に至るまでの経過を振り返り、「医療の充実とサービス向上により一層努める」
と式辞を述べた。

また、落成式後の講演会では、佐々木名誉院長が新病院の役割や設備を講演し、「新病院が
地域の宝として育つよう職員一同努力していく」と決意を述べた。

新病院は鉄筋コンクリート造一部
4階建て。内科・外科・眼科は1階、
プライバシーに配慮して小児科・産
婦人科は2階にそれぞれ配置。医師
5人が常勤する。また、イベントや
健康、予防医療に関する講座などに
活用できる多目的ホールを備え、町
民が交流する場も設置した。

新病院は9月1日に開院、外来患
者の受付は同4日から開始している。



落成した国保葛巻病院

において臨床研修中や義務履行猶予中の
者への面談を強化し、岩手県の医療体
制及び養成医師の受け入れ体制につい
て情報提供を行い、岩手県での義務履
行率向上に努めていることを報告し
た。

29年度事業計画案等を承認

会長に高橋昌造氏（矢巾町長）を再任

平成29年度（第1回）岩手県保険者協議会

岩手県保険者協議会は8月31日、国保会館で29年度第1回目の会議を開催した。各医療保険者を代表する委員など13人が出席した会議では、会長、副会長及び監事の互選が行われたほか、協議では28年度事業報告、会計決算などを承認した。また、29年度の事業計画補強案や会計補正予算が承認されたほか、特定健診データの保険者間移動の推進などの協議を行った。



岩手県保険者協議会
高橋昌造 会長

などの修正案や、28年度の国庫補助返還金を29年度に返還するための予算補正などが承認された。また、27年度から参画している地域医療構想調整会議

新委員での初開催となった会議では、役員の互選が行われ、会長に矢巾町の高橋昌造町長を再任した。（新役員体制は下表参照）

再任された高橋会長は「皆さんのご助言ご指導をいただきながら本協議会の運営を進めていきたい。ご協力をお願いする」とあいさつした。

医療保険者間で課題を共有

次に、29年度の本協議会の事業等に係る審議が行われ、本年3月の28年度第2回本協議会で承認された事業計画に、その後厚生労働省及び岩手県から通知の発出があった「特定健診データの保険者間の移動の推進」を盛り込む

岩手県保険者協議会役員名簿（敬称略）

任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日

職名	氏名	備考
会長	高橋 昌造	矢巾町長（再任）
副会長	佐々木 誠	岩手県自動車販売健康保険組合常務理事（再任）
副会長	阿部 徹	全国健康保険協会岩手支部企画総務部長（再任）
監事	佐藤 益子	地方職員共済組合岩手県支部事務長（新任）
監事	猿舘 直美	岩手県後期高齢者医療広域連合業務課長（新任）

委員等の29年度の推薦状況などが報告された。

特定健診データの保険者間の移動の推進についての協議は、29年度の事業計画に基づき、厚生労働省及び岩手県からの通知を本協議会名で再発出し、運用の課題や取り組み状況などを情報共有していくこととした。

県と連携して取り組み推進

続けて、本協議会がオブザーバー参加している第1回岩手県糖尿病性腎症重症化予防プログラム策定検討会について、岩手県健康国保課の湊俊哉主任主査から報告があった。

湊主任主査は「基本的には国保保険者のプログラムだが、保険者インセンティブの共通指標であり、県全域に広めたいと思っている」と述べ、29年度中のプログラムの策定を目指す考えを示した。

また、岩手県医療政策室の千田真広医療政策担当課長は、30年度から始まる第3期医療費適正化計画の策定に向け「保険者協議会と随時書面などでの協議後、年明けには最終案を提示し協議書を取り交わしたい」と述べた。



岩手県健康国保課
湊俊哉 主任主査



会議では第3期医療費適正化計画の策定に向けた意見交換などが行われた

同計画の中間案及び最終案については事前に本協議会に提示されることを確認し、今後の協議方法や日程などは引き続き岩手県と事務局で協議することとした。



岩手県医療政策室
千田真広 医療政策担当課長

29年度事業計画を決定

検査技術の向上を目指した研究会も開催

岩手県市町村職員臨床・衛生検査技術者協会「総会・研究会」

岩手県市町村職員臨床・衛生検査技術者協会（会長・菅原恵美子奥州市国保衣川診療所主任臨床検査技師）は7月22日、国保会館で総会・研究会を開催した。

開会にあたり菅原会長は「総会では29年度事業計画を決定していただく。また、



研究会では不規則抗体や心電図検査について講演が行われた

研究会は会員外の方にも参加を呼び掛けたところ、多数参加いただいた。自己研さん、施設間の交流の場となることを祈念する」とあいさつした。

議案審議では28年度事業報告が承認されたほか、学術研修会の開催や地域医療研究会「春季・秋季集会」への参加など29年度事業計画を満場一致で決定した。

各種検査の注意点を学ぶ

引き続き行われた研究会では、株式会社カイノス学術部学術課の中島康裕課長が「不規則抗体について」と題して講演し、輸血検査における各種不規則抗体検査法の特徴と注意点を説明した。

続いて、フクダ電子株式会社営業企画室の柄本敦典学術担当が「心電図検査の注意点と危険な心電図」と題して講演し、心電図の波形の判読について症例を交えて解説した。

今回の研究会は、岩手県予防医学協会から多数の参加があり、会員も含め活発な質疑応答が行われた。

国保連合会からのお知らせ

特定健診・KDB・国保総合システム等操作研修会を随時開催

本会では保険者支援を目的に研修環境を整え、希望した保険者に標記システム等の操作研修会を随時開催しています。少人数での開催となるため、疑問点をその場で解決できるなどのメリットがあります。お問い合わせは下記まで。

（特定健診・KDBシステム）		（国保総合システム）	
保健介護課保健係	担当：荒谷・関川	審査管理システム管理係	担当：梅木・赤根
TEL 019-623-4324		TEL 019-623-4326	
FAX 019-622-1668		FAX 019-625-3120	

10月の行事予定

4日	国保・後期高齢者ヘルスサポート事業における保険者ヒアリング	（国保会館）
17日	再審査部会	（国保会館）
18日	審査委員会（～23日）	（国保会館）
	柔整審査会	（国保会館）
	交通事故弁護士相談	（国保会館）
19日	第三者行為求償事務巡回弁護士相談	（一関市）
23日	保険料（税）適正算定マニュアル研修会（～25日）	（国保会館）
25日	介護給付費等審査委員会	（国保会館）
	市町村等介護保険相談・苦情処理業務担当職員研修会	（国保会館）
26日	国保・後期高齢者ヘルスサポート事業における保険者ヒアリング	（国保会館）
27日	国保盛岡地区協議会診療報酬明細書点検事務研修会	（盛岡市）
	国保診療施設管理研究会	（国保会館）

保険者へのレセプト公開日は10月5日です

編集後記

本号で紹介した「超高齢社会を乗り切るために」と

いう大きなテーマでの開催でしたが、パネラーである久慈市、陸前高田市、山田町の地域包括ケアに関する事例発表を聞かせていただき大変勉強になりました▼その中、陸前高田市二又診療所の石木先生が発表の終わりに話していたこと。「国は、人生の最期を自宅とよく言うが、そのための絶対条件とは24時間対応による医療・介護サービスの提供。これがないと絶対に無理である。そして、その実行には各市町村による医療資源の確保と24時間対応に向けた施策。これが備わって初めて地域包括ケアはいい形になる」▼石木先生から寄せられた言葉の重みに、地域包括ケアの理想と現実を垣間見た気がしました。では私たちが超高齢社会に向けてできることは何か。それは住みやすい町を作るため、できることから少しずつ行動していくことだと自分なりに感じました。（熊谷）